



速報

香港観鳥会、バードライフ・インターナショナルおよび香港海洋公園保育基金による 合同報道発表

世界で最も希少な鳥 ヒガシシナアジサシの保護のために
香港および中国の保全グループが協働し、過去にない成果を上げました
香港の保全活動家による“伝説の鳥”をまもるための無人島での監視活動

(2014年8月14日 香港) 香港観鳥会は、バードライフ・インターナショナルおよび香港海洋公園保育基金とともに、ヒガシシナアジサシの中国蕪山群島における音響・視覚誘引装置を用いた繁殖地復元事業において、2年目の今年は、昨年以上の成功を収めたことを発表します。2014年5月中旬～8月上旬の繁殖シーズンには、少なくとも43羽のヒガシシナアジサシが鉄墩島に飛来・滞在し、少なくとも20ペアが誕生しました。世界で生息するヒガシシナアジサシの生息数は50羽以下と推測されていますが、上記の数はその約90%に相当します。また、8月上旬には、若鳥13羽以上が巣立ちました。どちらも、ヒガシシナアジサシの繁殖地一か所の記録としては最も良い数字であり、希少種として注目に値する奇跡的な成功です。

ヒガシシナアジサシは、国際自然保護連合(IUCN)のレッドリストで、現在、絶滅危惧種に指定されていますが、20世紀の終わりには、絶滅したものと推定されていました。この伝説の鳥は、2000年に馬租島で再発見され、2004年には浙江省象山県の蕪山群島で新しい集団が確認されました。2011年以来、バードライフ・インターナショナルと香港観鳥会(バードライフの香港におけるパートナー)は、浙江自然博物館の陳水華博士、浙江野鳥の会、象山県海洋漁業局およびアメリカ オレゴン州立大学のダニエル・ロビー博士率いるアジサシ専門家とともに、デコイ(鳥型の模型)とアジサシの鳴き声を再生する誘引装置を導入し、蕪山群島におけるヒガシシナアジサシの繁殖地復元事業に取り組んできました。

デコイと誘引装置の設置は、2013年の繁殖シーズンに、象山県蕪山自然保護区内にある2ヘクタールの鉄墩島で始まりました。1年目に、ヒガシシナアジサシの幼鳥一羽が無事に巣立ち、早速うれしい成果をみることができました。しかし、同年には、繁殖コロニーでの観察が行われなかったため、詳しいことはわかりませんでした。そこで、今年は香港の保全活動家であり、バードライフ・インターナショナル東京 主任研究員のシンバ・チャンが鉄墩島に3か月間滞在し、営巣中の鳥たちを脅かす有害因子の有無を調査し、繁殖コロニーのモニタリングを行いました。ほとんど生態が知られていないこの種にとって、初めての繁殖現場でのモニタリングとなりました。シンバ・チャンは、台風が島を通過した際にも留まり、連日連夜、アジサシコロニーの警備、モニタリングを続け結果、世界に生息するヒガシシナアジサシのうち最大90%が、この繁殖地に誘引され、安全に子孫を残したことを観測しました。



繁殖シーズンを終えるころには、ヒガシシナアジサシの繁殖生態に関する有効なデータが大量に収集されました。このデータは、絶滅の危機に瀕するこの種の次の繁殖地復元事業の管理・設計において、おおいに役立つことになるでしょう。当事業は、開始 2 年目にして優れた成果を上げましたが、来年は復元活動を五指山島、浙江省および馬祖島へ拡大し、台湾の研究者との共同研究についても検討しています。上記 3 か所では、営巣環境の改善を図るとともに音響・視覚誘引装置を導入し、ヒガシシナアジサシの繁殖地のネットワークを確立することを目指しています。また、ヒガシシナアジサシの渡りおよび越冬地を明らかにするために、個別に番号を付けた小さな足環を鳥の足に取り付け、移動の追跡を行うことも提案されています。

「中国東部におけるヒガシシナアジサシの生態および渡りについては、徐々に明らかになっています。うまく設計された保全活動と教育プログラムは、ヒガシシナアジサシとそのほかの海鳥の個体数復元に役立つでしょう。さらに重要なことは、当事業を皮切りに、国際協力の関心が増し、アジサシ類および海鳥コロニーの復元が、特にアジアで発展することが望まれます。」とシンバ・チャンは述べています。

香港海洋公園保育基金 代表 スザンヌ・ジェンドロン氏は、「当基金は、2008 年以来ヒガシシナアジサシの保全活動を支援してきました。活動を始動させるための資金を準備し、地元地域に保全活動の重要性について理解してもらうための啓発活動や 2014 年の浙江省における繁殖数のモニタリング調査にいたるまで援助をしてきました。われわれは、今年の結果、絶滅寸前のヒガシシナアジサシが生き残る望みを持つことができたことをうれしく思います。そして、当事業は、われわれの保全活動を引き継ぐ次の世代の保全活動家たちのよいモデルです。今年、当基金の大学生スポンサーシッププログラムに参加した香港大学の学生 2 名が、18 日間現地に入って調査に加わりました。今回、中国における海鳥保全の重要な節目に立ち会ったことは、彼らにとって一生に一度の貴重な経験となりました。」とコメントしました。

当事業は温かい支援なしには実現できませんでした。ご支援いただいた団体・個人は次のとおりです。象山県海洋漁業局、浙江省自然博物館、香港海洋公園保育基金、独立行政法人環境再生機構 地球環境基金(日本)、國家林業局絶滅危惧種救護基金、太平洋海鳥グループ、マーク・コンスタンティン氏(バードライフ・インターナショナルのサポーター)。また、浙江省の 2 団体から現地での幅広いサポートを受け、当事業は大成功を収めることができました。アメリカ合衆国魚類野生生物局からは、鳥を誘引するためのデコイ(鳥型の模型)と音声再生装置を調達していただきました。

(以下省略)